

## 4 性の指導について考える

### 1 はじめに

ここではこのグループができて以来の研究の経過について簡単に述べることにする。

これまで養護教諭を中心になされていた性の指導が、グループとなって大きく変わったと思われることは、指導の為の基盤ができ、教師間の意見交換が活発となり、性指導が“市民権”を得て大きく動きだしたことである。同時にこうした動きがこの指導を容易にし、子ども達がよりよく育つ為の環境作り、雰囲気作りにもつながるものであった。

私たちは、子ども達の性感情や行動をよく見つめ、肯定的に受け入れることから出発し成長に合わせて実態に即した指導を行おうと摸索してきた。その中で討議され、大切なものとして受けとめてきたことは、次のようなことである。

- 性教育は、男の子あるいは女の子として生まれ、死ぬまで自分の性を見つめて生きること。そして、その中で男女の協力、いたわりあい、命の尊さなどを学ぶまさに性は生、生きることの教育、人間教育であること。
- 教えるべきことは、きちんと教えるという姿勢をもつこと。子ども達の真剣な問いかけには決して逃げることなく事実・真実を語り、子どもの悩み、不安に相談にのれる教師でありたいこと。
- 性の自立は、時間を要する学習とトレーニングである。したがって小学部から高等部まで、障害の軽重を問わず、年齢相応、発達に応じた指導とその子なりの自立があること。
- 性指導に限ったことではないが、とりわけこの分野では、より一層家庭との連絡、協力が必要であること。
- 在校生を見つめ、その指導のために、卒業生や年長者の性感情や行動を、親や施設指導員の人たちと話し合う研修の場をひろげたいこと。

それでは、この指導の大事な両輪ともいえる学習実践とそれを支える周囲の大人たち(とりわけ親)への働きかけについて過去の経過をまとめてみたい。

#### (1) 学習実践

この指導は、教師自身も学んだ経験に乏しく、しかも尻ごみしたり、敬遠したくなる一面があることは事実である。しかも、教師一人一人の性意識も問われ、意欲的、積極的な取り組みが要求される。その意味でグループとして取り組めたことは幸せであった。そして、上記のことを確認しながらとりあえず実践を積み重ねようとしたのが、一、二年次であった。実際の授業の前後には必ずグループの話し合いを持ちながらすすめるうちに、気負いもなくなり、少しずつ子どもの実態にあった、工夫された授業が多くなったようである。二年次から親との学習会も多くなり多少実践の数は少なくなったが、指導の幅を広げ

教材・教具も考えた積み重ねのある実践となっていた。

以下 これまでの学習実践を記しておく。(主としてグループ員の授業)

一年次…「毎月の誕生会」(小学部)、「私の誕生」(中学部)、「生殖のしくみ」(高等部)、  
「ぼくの体、わたしの体」(中学部)、「生命の大切さ」(高等部)

二年次…「ぼくのこと、わたしのことを知ろう」(中学部)、「からだについて知ろう」  
(中学部)、「私の誕生」(高等部)

三年次…「私の誕生」(高等部)、「男子のトイレマナー」(中学部 高等部)、「どうして  
パンツをはくのかなあ」(小学部) 「動物のことを知ろう」(中学部)

四年次…「おしゃれ」(高等部)、「男子のトイレマナー」(中学部 高等部)

## (2) 家庭との協力など

子どもたちへ直接的な働きかけと同時に大切なのは、家庭との連絡、協力であり、さらに、年長者の性感情や、行動も視野におくことが、より良い指導を生むという意味で卒業生や施設指導員との話し合いも大切といえよう。とりわけ、家庭との連絡、協力は欠くべからざるものといえる。グループでは一年次から毎年親との学習会、懇談会を持ってきた。初めは学校側の取り組みに協力を求めたり、啓発的な働きかけを意識するなど伝達的な色彩があったが、次第に、気楽に不安や悩み事を相談しあい、語りあえるものとなってきた。話の発展として、講師(産婦人科医)を囲んだり、父親を対象とした懇談会をもつなどして、共通理解と信頼を深めてきた。内容も、おしゃれ意識や老人の性など幅広く取り上げられるまでになった。

また、四年次には、懸案としていた、施設指導員との懇談、男子卒業生との鍋を囲んでの会などを持つことができた。施設指導員との話では、性教育の受け止め方など、共通認識の上に立って話し合いが持てたこと、そして、次に託すといった姿勢も必要であるということなどを学べたこと、卒業生との語り合いでは、仕事のことの他に、彼女が欲しいといった性に関する気持ちの一端を聞けたりしたことが、何よりであった。

## 2 これまでの取り組み

### (1) 学習実践のまとめ

先に述べた学習実践の中から幾つかについて、その動機や取り上げ方、指導上の留意点や教材・教具、そして実践の中で感じたり学んだりしたことを簡単に述べてみたい。

① 「生殖のしくみ」は高等部理科で、比較的能力の高いグループを対象とした学習である。この学習は頻繁に保健室の出入りを繰り返した2名の男子生徒に注目して取り上げたものである。生殖器の名称や構造を話している間は口数の多かった兩名だったが、精通現象が病気ではないことそしてパンツをよごせばきれいにすればよいとの話の段になると静かになり、真剣な表情となっていたのが印象的であった。以後保健室の出入りも少なくなった。日頃の生徒の性表情や行動を的確に受けとめることの大切さを再認識した。

② 「ぼくのこと、わたしのことを知ろう」は中学部1年の学習である。小さい時の写真をパソコン画面に表示して見たり、家族の絵を描かせてそれをもとに簡単な家系図を作ったりして、家族に大切にされ育ってきたこと、代々受け継がれた命であることを感じて欲しいと指導したものである。ここで担任は、性を全面に押し出すのではなく、ほんの少し性を意識することによってふだんの授業の中で性につきうことができるのだという思いで取り組んだものである。なおこうした学習では、親のいない子がいた場合や血のつながりがない家族構成の時など十分留意していかなければならない。

③ 「からだについて知ろう」は中学部理科で、紙芝居を作成して授業にのぞんだものである。からだの名称や目、耳、口、鼻などの働き、手足の働き、たべものの通り道などの学習のあと、『おへそのひみつ』という題の紙芝居を使って、身近なへそを通して生命の誕生に迫ろうとしたものである。内容はへそのあるなしから、動物の生まれ方、お母さんのおなかの中の育ち、頑張るお母さん、へその緒など生命の誕生にまつわるいろいろなものを含んだものである。生徒の実態にあわせた、しかも興味をもって臨めるように考えた教材の工夫は、教師と生徒とのやりとりが数多く見られる、楽しい学習となっていた。

④ 「男子のトイレマナー」(中学部、高等部)。これは公共のトイレでズボンをおろしてお尻をだして排尿する場面を見たことをきっかけに指導をおこなったものである。これまでのトレーニングズボンをファスナー付きにきりかえることにし、ファスナーをおろして排尿することを改めて指導し、習慣化させようとした。そこで実物大の人形を作り、包皮付きのペニスと性毛を取りつけ、パンツとズボンをはかせて具体的な操作の指導をした。さらにトイレにも、尿がかかると青色の花模様がピンクに変わる芳香ボールをおいて、実際の生活の中でペニスをもつことを意識させようとした。このファスナー付きトレーニングズボンはあたり前のことと受けとめていたものの、周囲からの反響の大きさに改めて性の視点からとらえなおすことの大切さを教えられたものであった。

⑤ 「私の誕生」は②と似たような狙いをもつ学習である。高等部の卒業学年にきまってしまうようになった学習で、家庭から幼少期の写真と出産前後の苦労話などのメッセージをもらうことから始まる学習である。写真などは見せられたりしていても、おそらく語られることのない出産や育児にまつわる家族の気持ちなどを、親に代って語りながら、生命の大切さ、尊さを知らせ、いたわり、思いやりの心を育てようとした学習である。子ども達は自分の写真がでてくれば身をのりだして見、家族からのメッセージは、自分や友達を問わず、親の気持ちや自分が大切にされてきたことを感じとってくれる。なかには涙を見せる生徒もいて、改めて子ども達の感性に訴えた指導の大事さを感じた。

⑥ 「どうしてパンツをはくのかなあ」小学部3組(5、6年生)。男子用パンツと女子用パンツを取り上げて、男、女を意識させ、男女の体の違いを教えそしてパンツをはくということから「恥ずかしさ」を意識させようとした学習である。この「恥ずかしさ」の

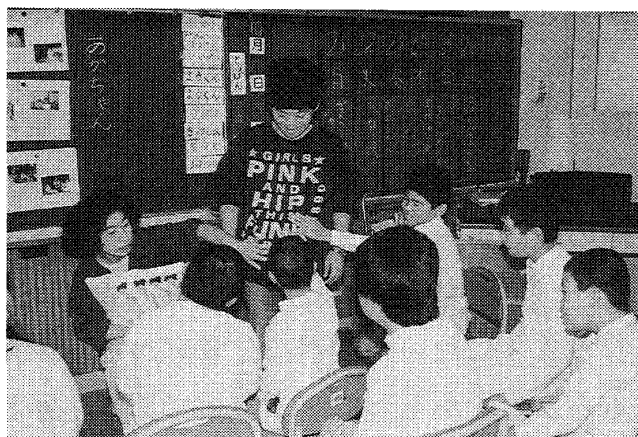
指導は非常に難しいが、小さい時からしかもパンツをはくというかたちのあるものから入っていくことが肝要かと思うのである。子どもが気がつかないからあるいは知的に幼いから、必要ないというのではなくて、大人になることを意識させていくという姿勢が大事である。

⑦ 「おしゃれ」高等部。この学習は、親との学習会でも話題となり、協力を得ながらすすめられたものである。人を意識し自分を装って生きる行為は大人へと成長していく1つのステップともなる。子ども達の自立のあらわれとしてそして性指導を幅広くとらえることにもなる。ふだんと違った自分を知ってもらおう為に、あえて普段着ではなくて、男子はスーツ、ネクタイ、女子もよそ行きのおしゃれに挑戦したものであり、生徒の喜びようは予想以上のものであった。

⑧ 「あかちゃんの時があったんだよ」小学部2組（3、4年生）。②と⑤と似た学習で、絵本や写真を見ながら、みんな赤ちゃんの時があったこと、そして大事にされ大人になっていくこと感じてもらおうとした学習である。この時クラスの児童のお母さんが出産間近でありながら、快く学習に参加してくれた。実際におなかを触らせて赤ちゃんの動きを知らせた。学習後、学級通信でこのことを知らせた所、家庭から「夕食後のひととき、家族みんなで我が子を囲み、赤ちゃんや小さい頃のアルバムを見ながら過ごした」という、家族のきずな、かわりが見られうれしく思った。お母さんの学習への参加、協力のありがたさ、また家庭との連絡、協力の大切さを端的にあらわしたものと見える。



「おしゃれ」



「あかちゃんの時があったんだよ」

つぎの今年度の学習実践は、担任が妊娠したことを機会に学習として展開したものである。身近にそうした人がいて協力が得られるものなら、機会を逃がさず考えたいものである。

以上、学級指導や理科、保健などの教科指導等、授業として特設されたものをいくつか紹介した。ここでは取り上げてはいないが、授業として指導されたものを補充するものとして、いわば性指導の両輪の一つともいえる毎日の生活の中で、その場、その時に指導される日常生活指導の大切さを指摘しておきたい。性の自立についてマナーに関するものは日常生活指導に負う所が大であるといえよう。

(浦田東作)

(2) 今年度の実践「K先生の赤ちゃん」(生活の授業 高等部1年)

6月に担任のK先生のおなかに赤ちゃんがいる事を知らされた生徒達は、目をまるくして「エーッ 赤ちゃん! 本当 ワアーッ」と嬉しそうに、先生のおなかに目をやった。K先生も少し照れくさそうにおなかの赤ちゃんの事を話した。

このクラスは男子7名、女子3名でK先生の赤ちゃんに興味や関心をもち「早く赤ちゃんの顔が見たいね」と期待も大きいものだった。

クラスの数人は、小学部時代、誕生会や生活の時間に担任の出産や誕生にまつわる話を授業で聞いている。中学部の時でも生徒自身の幼い頃の様子、そして家族の事、さらに今の自分自身の事を考えてみる授業を受けている。そこで高等部に入った彼等に、一番身近な担任の赤ちゃんの話を通して、生命の大事さを気づかせ、自分自身や周囲の人達を大切にしていこう気持ちを育てたい考え、実践していく事になった。

① おなかの様子 6か月(9月18日)

K先生が検診を終えて教室へ行くと、何人かの生徒が「赤ちゃんの話をして…」とせがんだ。そこで、最初の赤ちゃんを出産するまでの10か月間が大変だった事を思い出しながら話をした。その時の会話を抜粋する。下記のアルファベットの①はK先生、A、M、I、N、Sは生徒である。

① 「きっとお母さんも大変な思いをして皆を生んだから、皆の事、とっても可愛いんだよね」。

I (難しそうなお表情をして)「そうですかね? 僕のお母さんはあまり可愛がってくれません」

① (少し戸惑いながら)「先生は産むまで33時間もかかって、もう死ぬかと思いました」

I 「絵本『こいぬが生まれるよ』を読んでもらった時、犬のお母さんが産む時にウーンとうなっていた」(と言いながら表情をこわばせる)

① そうだね

A 「手術より痛い? …そんなに痛いのはどうして産むの?」

① (少しドキドキしながら)「先生赤ちゃん大好きだし、舞ちゃん(第一子)一人より姉妹がいたほうがいいと思ったのよ…皆も家に帰ったら、一度お母さんに聞いてごらん。先生も元気な赤ちゃんを産むから、皆もそれまで助けてね」

A (隣の男子に向かって) 「あまり迷惑かけたらダメよ!」

ある日、胎児の写真を見せた折りに「皆のお母さんも、生まれた赤ちゃんを大切に育てたんだよ」と話したところ、ある生徒は「僕をそんなに大切に育てたとは思えませんが…」と意外な返事に驚かされた。このことは、指導の必要性を特に感じさせるものであった。

② おなかの様子 8か月（10月22日）

病院で録音したあかちゃんの心臓の音を聞かせた。生徒の反応は「トコトコ」「ガラガラ」「お豆がザーザー」「地震みたい」と様々。つぎに4か月の胎児の超音波写真を見せると「魚みたい」①「目がまだ横についているからだね」7か月の胎児のへその緒を見て「命の綱」8か月の胎児が両手を顔に当てているのを見て「いないないバー」と動作を真似る。K先生は胎児が活着ている証拠に、おなかがよく動くのでくすぐったく感ずる事を話す。「先生のおなか触ってもいいよ。でもそっとね」に生徒はおそるおそる手を伸ばす。Sはおなかに耳を当て「何も聞こえん」と残念そう。

この話のあと、休み時間などに先生のおなかを見ては「赤ちゃん元気？」と尋ねたり、「おなか触りたい」など、よく話題にのぼるようになった。また近くの兼六園へ皆で散歩に出かけ、階段を下りる時に「先生！気をつけてね」と気遣う。その生徒自身も階段下りを苦手としているのだが…。

③ 赤ちゃんのお風呂（11月20日）

これは養護教諭のH先生との共同授業の記録である。ここでは、実物大の赤ちゃんの人形を使い、沐浴させる授業を通して、生徒達自身が家族に支えられて大きく成長した事を知らせ、またこのことを親に知らせることにより家族で出産の頃や養育での心配や不安、そして喜びなどを話し合うきっかけをつくりたいと思った。①はH先生。



授業のようす

① 「赤ちゃん 抱いたことのある人いますか？」

A 「Y先生の赤ちゃん 抱いた事ある」（赤ちゃん人形を抱きながら）「この赤ちゃん結構おもしろいね」

① 「K先生はもうすぐ赤ちゃんを産むのですが、どのようにして生まれるのかな？この本（『おなかの赤ちゃん』レナート・ニルソン写真集）を見て！（これを見て、横一列に座っていた生徒が、顔を突き出し目をこらして写真の前に集まって来る。教師は少したじろぎながら話を続けた）赤ちゃんが生まれ出てくる道は、女の人の生理の出る道なんだよ。いつもは小さい穴なんだけど、産まれる時はゴムみたいに伸びて通り易くなる。生まれてしまったあとは、また小さくなる。この話の続きはまた今度にしようね。この他に、帝王切開といって、メスでおなかを切って出してもらおう赤ちゃんもいます。このクラスでは○君がそうかな」

I （右手でおなかを切る真似をする）

① 「それでは今から赤ちゃんを入れるからね。お湯は40度くらい。皆がお風呂に入る

温度と同じくらいですね」(ベビーバスにお湯を入れる)

A 「熱い?…(指を入れ) あっ あったか〜い やけどしないわ」

Ⓣ 「赤ちゃんは男の子かな?女の子かな?さて おむつを外して今から入れるよ」

K (女子3人が前に出る)「気持ちいい? 私赤ちゃんもてるかな?」

A 「あっ!この子 男の子や… 私 ガーゼで顔拭くよ」(Tからガーゼをもらって おそるおそる拭く。そのうち男子も前へ出て女子を囲むようにしてのぞき込む)

Ⓣ 「皆も赤ちゃんの頃、お母さんは『かわいい』と言って体を洗ったんだよ。だから今、皆の顔はぴかぴかなんだ。ただ大きくなったのではないよ。(肌着を着せる) それでは順番に、赤ちゃんを抱いてみてください。左を頭にして抱くと心臓の音が聞こえて安心するんですね。それで赤ちゃんもお母さんが大好きなんです。皆、大事に抱いてね。」

M 「ワーッ(顔を見て あやすようにする) つぎにお父さんどうぞ」(隣の男子へ)

A (その男子の様子を見て)「ほんとう!お父さんみたいや!」

#### ④ VTR「弟達の誕生 わかば社」(11月21日)

このVTRは家族4人がお母さんの出産を心待ちにし、出産には家族全員が立会い、お母さんの出産の様子を涙して付き添うところや弟たちが産まれてくる喜びの表情をとらえたものである。このVTRを見て家族で支え合い、苦しみも喜びも一緒に感じとれた家族をうらやましく思えた。そこで、生徒と一緒に見ることにした。

陣痛が始まる前までは、キョロキョロしていた生徒も、陣痛が激しくなると、その緊張が伝わったのか生徒の見る目も真剣になった。

お母さんのハッピーの声に、手をおなかにやって仕草を真似る生徒もいる。赤ちゃんの産まれ出た時の「オギャー」の第一声に、生徒の中からオギャー」の声や、何人かの拍手が聞こえてくる。2人目の赤ちゃんが生まれ出てきた時は、生徒達の緊張も少し和らいていたようだ。映像をみながら「アッ 頭でてきたよ」「こわい」と口を手で押さえる生徒も、どういう訳か笑っている生徒も。「出た!」「男の子や オギャーオギャー」そしてそのあと、その家族が産後数か月の双子の赤ちゃんをベビーカーに乗せて登場する。その時の双子を見て「かわいい」「2人いる」などの声が聞こえた。

このVTRを見た後、感想を聞いたところ「かわいい!すごくかわかった」「赤ちゃん頭から出てきた」「こわい」「家族がふえた」「面白かった 赤ちゃん」と言うようなものであった。「こわい」は出産時の血を見た時のようだ。そこで、お母さんは産んだ後は大変元気になった事や2人の赤ちゃんを抱いてすごく嬉しそうにしていたことなどの話をしてこの授業を終えた。

次の生徒の文章は、これまでの授業を通しての感想文である。校内での意見発表会において、全生徒の前で発表されたものである。

#### 赤ちゃんのことでおもうこと

この前生活の時間に、弟たちのたんじょうというビデオを見ました。お母さんのしゅっさんのところも、見ました。私は、これを見て、お母さんが、こんなに、くろくとして生んでくれて私は、うれしいです。でも、私は3さいまではあるけませんでした。あるくときは、赤い物を、はめていました。でもいまでは、歩けるし走れることもできます。お母さんと、お父さんに、感謝したいです。ビデオを見ておもらったことは、たいへんだなあっておもうことと、かんどうしたってことです。ビデオのなかのおねえちゃんが、しんぱいそうに、手を、つないで、すこしなみだを、ながしていました。そして、お父さんも、なみだを、ながしていました。そして、男の子は、絵を、書いていました。そして、もう1つ赤ちゃんのことで、おべんきょうしたことがあります。それは、H先生と赤ちゃんのおふろの入れかたについておべんきょうしました。おにんぎょうの赤ちゃんを、つかっておふろに、どうやって入れるかとか、どうやって、ふくとか、じっけんしました。だいたいおふろのおゆのあつさで、赤ちゃんは、はいるそうです。そして、私が、いちばんびっくりしたことが1つあります。それは、おふろあがりに、赤ちゃんは、お茶をのむのです。私は、それをしりませんでした。みなさんは、していましたか。これをせんぶふくめて、こんど、K先生は、赤ちゃんを、生みます。そのために、あしたから、おなかの赤ちゃんのためのお休みします。赤ちゃんが生まれる予てい日は、1月19日です。これよりはやくなるかもしれないし、おそくなるかもしれません。生まれたらこくりつびょういんに、みんなど、見に、行きたいです。こくりつびょういんは、高Cから、よく見えるらしいです。高Cで、手を、ふったら、見えるかなあ。それではK先生元氣な赤ちゃん生んでください。これで、おわります。

最初にこのVTRを見た時、どんな感想をもつのか少し心配した。しかし、感想文を読むと生徒達はありのままを先入観なしで見てくれたこと、そして産休に入ったK先生への優しい思いや、まだ見れない赤ちゃんへとつながってくれたことを素直に喜びたい。

#### 授業を終えて

生徒はK先生の出産を心待ちしている。早く赤ちゃんを見たい思いである。この半年を振り返ると、生命や性について、生徒達にとって担任の妊娠という機会を通して、その苦労や新しく生命を宿した喜びを具体的な体験談の中で、考えたり気づいたりすることが出来たのではないだろうか。また生徒達の思いや気持ちを大切にしながら事実を事実として知らせる必要性を感じた。同時に生徒と接するなかで私自身の中に、性に関する固定観念や先入観という厚い壁を感じたりもしたが、生徒達と一緒に考える事ができ大変有意義であった。

(諸 江 修)

#### (3) 家庭の協力など

この研究グループが家庭との協力として親との語り合いの場を持ったことや卒業生との会食、施設指導員との交流について記すことにする。

##### ① 親との学習会

子ども達の性をどうとらえるか、性の自立に備えてまわりの大人達はどうか、性の指導を理解し確認しあうために親との学習会を毎年設けた。

父母の出やすい時間帯を考えたり、また性の指導を幅広く受けとめて「おしゃれ感覚を育てるために」といったテーマの企画も試みてきた。この学習会の参加者は、母親が大半を占めていた。性の指導は男子の性、女子の性と互いの性を理解しあうことから始まるが、性はプライベートな部分だけに男子の生理となると母親の指導にもおのずと限界がある。父親の出番となる『父親の会』をぜひ開いてほしいと、母親からの要望があり父親の参加も呼びかけてきた。

研究グループが組織される以前はどちらかというと、性指導の啓発、知識理解を高める



ためにといった伝達的要素の強いものであったが、この5年間のとりくみでは参加者と共に性を語りあってきたことが大きな違いといえる。車座になった参加者から、日頃のとりくみや感じていることが語られ、父母の思いや悩みに教えられることが多かった。耳を傾けながら、その子ども達の置かれている環境を知り、学校生活の中では見られない性愛感情にも触れることができ、子ども達の性を多面的にとらえることができたのである。

これまでの学習会で学んだこと

- 私たちは教えるというより、むしろ自分自身の生き方として性を考える姿勢が定着してきていることに気づいたこと、また親の中にも自分の生き方として性をとらえていることを知ったことである。
  - ・「“父親の性の学習会”に参加してから、父親としてその出番や役割を意識するようになり学校行事などに関心をもったり、社会参加にも積極的になった」という。
  - ・知的障害のある人達の性の関心は困ったことと考え、欲求を押える方向での指導がされがちである。マニュアルどおりにはいかないが、彼らの性を肯定的に認めていこうと思っている。
  - ・「融通のきかない子どもであり、今できる時にいろいろ体験させたいし母親ではかかわれない公衆トイレや銭湯・温泉めぐりをしている」といった話が聞けた。
- 親どうしが学級や学部を越えて学習しあっていること、我が子からまわりの子へ、まわりの子から我が子への理解に眼がそそがれていることである。
  - ・「今日は皆さんの都合がつかずクラスの代表で参加しました。学習会で聞いたことや感じたことを話すことになっているのです」と、参加できない親のメッセージを持って参加し、後で話し合うという親もいた。
  - ・高等部卒業の時期になり、かつて学習会の時、先輩の母が話していたことが思い出され、息子のリアルな性行動にも戸惑わなかったという。
  - ・性の学習会の話題がきっかけで、親どうしが子どもの性のことをフランクに相談しあっている。
- 性の話題も問題視されずにまわりに浸透しつつあること、また学校が気軽に語り合い、相談する場として位置づいてきていること、さらに何をどう受けとめて指導していくかということが自然体で語られていること。
  - ・ナプキンを取り出してしまう女の子の行動や人前で触る自慰行為に対してつなぎのズボンやトレーニングウェアの改良にアイデアを出し合っていた。
  - ・下着などの選択に対しても、母親が我が子のことでありながら「ブリーフをはかしているんですけどトランクスにした方がいいでしょうか？、Mサイズだと小さいでしょうか？」などと、まわりに相談している。母親の一方的な買い与えから子どもの立場になり始めている。パートナーである父親ともっと語り合えればよいのにとと思う・・・

- ・スキンシップの取り方にも一人ひとりが違うことを認めたらうで、誰かれなく抱きついてくる行動は小さい時は許されても大人になると許されない社会的な制約があることを意識して受け入れている。
- ・学級懇談の話題のなかに子ども達の性のことがとりあげられている。
- ・入浴指導は性の指導の始まりであるといった視点で身辺自立(生活指導)をみている。
- ・定期的に父親に呼びかけ話題交換の場を作っていこうと積極的な意見がある。

この学習会を通して、親の率直な思いに近づくことができたことを喜ぶとともに、親と協力して子ども達が大人になれるように、気持ちをあらたにしていきたい。

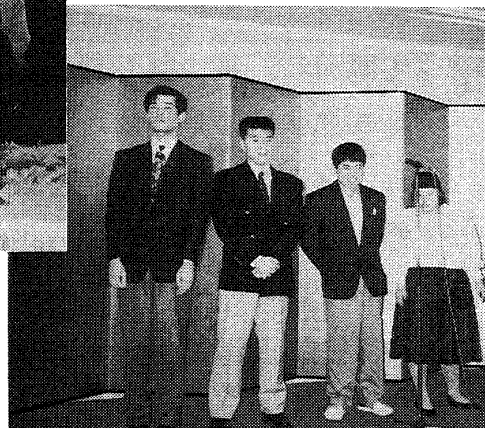
父母、子ども達相互のコミュニケーションの中でお互いを認めることや相手を大切にすること、さらに言えば許し合える関係が見えてきたように思える。こうした関係の中ではじめて互いに気づかないでいる面を率直に示唆しあえるものである。

## ②卒業生との会食

今年も卒業生の親子がつどうパーティが行われた。一人で、あるいは友達どうしでさそいあった人、親子で参加した人など、おしゃれをして出かける場のあることを楽しみにして参加していたようである。父にネクタイを結んでもらったこと、このスーツを自分で選んだとか、ピアスや化粧をしてきたなどおしゃれ心をのぞかせており喜ばしく思った。

食べるマナーも育ってきており、会を重ねることに大人になっている面を感じた。

運動会や表現会、夏祭りになると大勢の卒業生がやって来る。また、彼らには学校以外に出向く所がないのか学校をよりどころにしているのか、会社の休業日などになると、学校によく訪れる人もいる。時には月経の不安や恋愛の悩みを持ってくることもある。また「彼氏を紹介してよ」と率直な電話をかけてくることもある。気軽にでかけられる場が学校である。彼らの成長や性の相談を通して、在校生の性の指導につながっているのである。



卒業生親子のつどいパーティ

初めての試みとして、卒業生との鍋を囲む会を計画した。男どうしで、ビールを飲みながら話がはずんだ。家庭との了解を得ながら、本人の意志で集ってきた卒業生達である。職場から直接かけつけてきた人、一度家によって出かけてきた人、それぞれであったが楽しめる機会が作られたことはうれしそうでありにぎやかであった。話題にあがっていた女

優の裸婦の写真集“サンタフェ（宮沢りえ）”をみる機会があった時「それは駄目です」と見ることを拒否する人、「おっ!」と歓声をあげ体をのりだす人、隣どうし肩を寄せ合うなどそれぞれ感情をみせていた。「見てもいいよ、でも見たくない人は見なくていいよ」「たとえ男でも見たくない人もいます、また、見せたくないお母さんや先生もいます」「見る場所を心得ていこう」といったことなど裸婦の写真集や雑誌を見るにもマナーがあることを話した。

性の部分はそっとしておきたい一面もあり、パブリックとプライベートを意識させることも大切である。障害者には性を学び合う仲間体験が少ないといわれるが、この会では先輩が後輩に父親から教わったことを話っていた。

父母や教師が人生の先輩として、アルコールの心地良い雰囲気の中で、雑誌やテレビからの断片的な情報ではなく正しい知識を生々の声で語っていききたいものである。その中で彼らの持っている価値感を受けとめ、子ども達が生きていく上での選択の幅を広げ、そして豊かな性をどのように育てていくかをこれからも追求していききたいと考えている。

### ③施設との交流

入所施設を訪問し指導員との懇談から卒業後の子ども達の性に対する気持ちがうかがえた。所生の性表情や行動を大人としてあたり前に受け止めているといった共通認識の上になんか話合われたことはうれしいことであった。彼らにとって学校生活よりここでの生活がはるかに長いと認識し生理や入浴・清潔のこと、触れ合いのことなど施設での生活指導は性の指導の場となっていることも実感した。施設でも親が安定するように家庭連絡を大切にしていること。また所生にとって施設は共同生活の中で性のパブリックなことプライベートなことを大切にしながら大人へのステップを歩む場になっていることであった。

彼らの行動は健常児であれば幼児期、少年期にみられることが、思春期、青年期になって表れている場合や、人間関係を求めての性表現もあり社会の目から問題行動と思われることがある。卒業後の彼らの生活をみることは学校での指導を考える上で一つの手がかりを与えてくれるものである。子ども達が大人への自立に備えてできるだけのことをして送り出したいものだと思った。そしてその一方では信頼関係にたって施設に託すといった姿勢の大切さを感じたものである。

以上、学校での指導を支えるいくつかの点についてみてきた。いずれにおいても父母や指導員、卒業生との触れ合いから子ども達の生活を改めて性の視点で見えていくことができたことである。親は勿論のこと障害者を取りまくいろいろな立場の人と連絡交流の場を持ち、ざっくばらんに語り合えることがより一層、彼らの自立を促すことになるだろう。

これからも子ども達が豊かでうるおいのある生活がしていけるように、また自分自身の生き方を問い直すために語り合える場を持ち続けていきたい。そして、いつでも気軽に相談しあえる信頼関係を大事にしていききたいものである。 (花本 ヨシエ)

### 3 性の指導カリキュラム（試案）

#### (1) 基本的な考え方

小学部の段階から子ども達の成長・発達にあわせて必要なはたらきかけをおこなっていくなれば豊かな高まりがみられることは「今年度の実践」の中でもみてきたとおりである。それだけに小学部から高等部にいたるまで一貫性をもったきめ細かい指導が性の指導の分野においても大切であることの認識を一層深めているところである。

これまで教育課程づくりをとおして性の指導についての検討もおこなってきたが、どちらかといえば「保健」という側面からのものといえる。事実昭和62年度作成の『教育課程』では性の指導は“資料”として「保健指導」の中の1つとしてとりあげられている。しかし、その後研究を深めていく中で性の指導は人間の生き方そのものという共通の認識がもたれるようになり総合教育的な面からの追究がはじまったといえる。

#### 性の指導目標

総合教育的に性の指導をとらえると内容も幅広いものとなるが、それだけに明確にしなければならぬのは目標である。そこで、まず昭和62年度の『教育課程』の「ねらい」からみていくことにしたい。「ねらい」では次の3点をあげている。

① いのちの大切さを知らせる

いたわり合い助けあって生きていくことの大切さを指導する

② 体の変化に気づかせ、恥じらいを意識させる

③ 性の指導をすすめていくにあたって性のことで気軽に相談できる窓口（体制）となる

これらの「ねらい」を受けつぎつつ、研究グループでのこれまでの到達のうえにたって次の目標をたててみた。

① いのちの大切さについて知らせるとともに自立する力を養う

② 男性と女性は互いに認めあい、ともに協力しあうことの大切さを知らせる

③ 性についての科学的知識を正しく理解させる

④ 性文化をうけいれるだけでなく選択する力を養う

以上の4つの目標は“性”は“生”、人間の生き方そのものというとらえ方からのものであり、実際の指導の場においては発達の段階によって重点の置き方も異なってくるものと思われるが、いつ、いかなる指導においても常に念頭に置きたいということからまとめあげたものといえる。

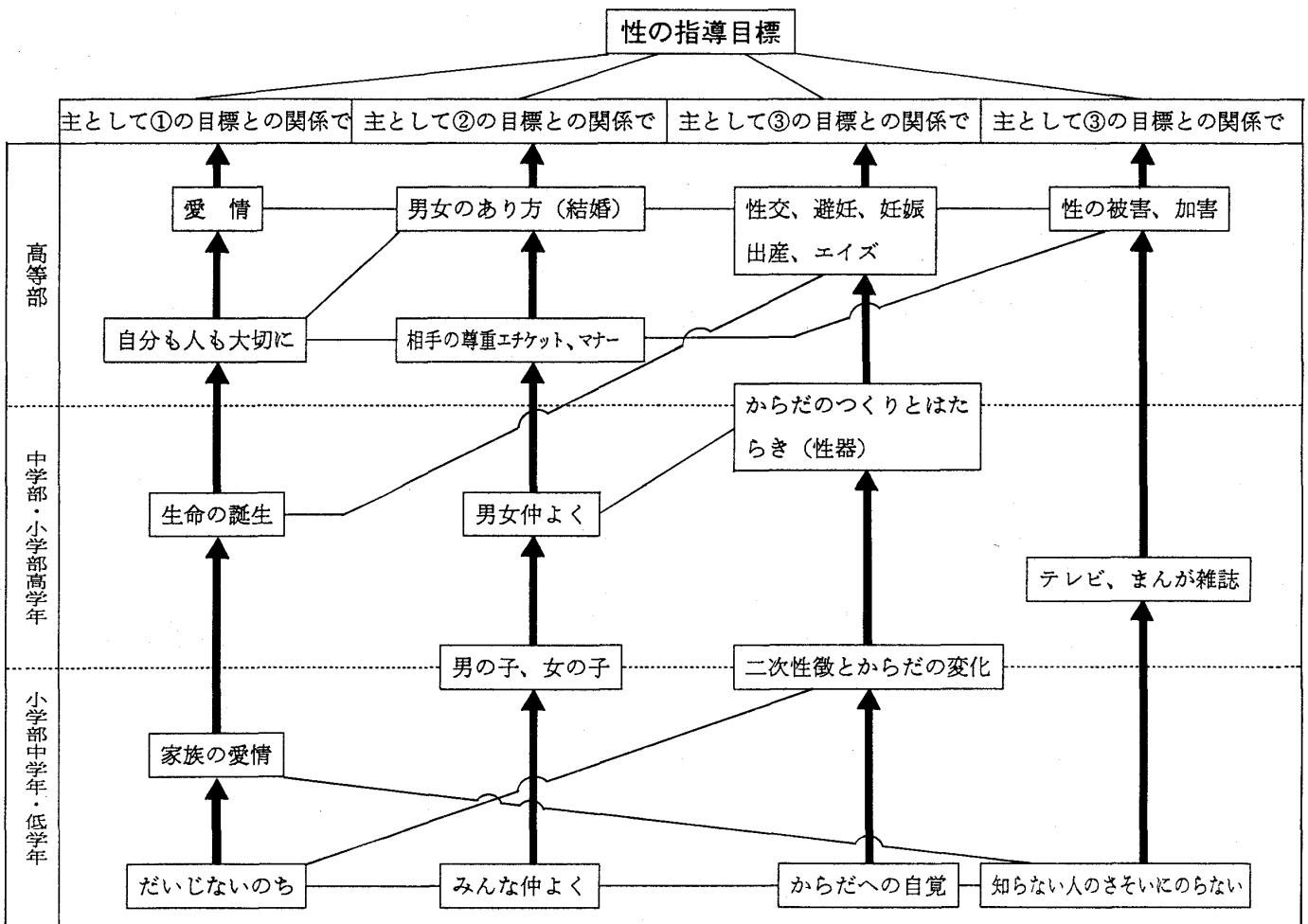
#### 目標と内容の関係

先に示した目標にせまろうとした場合「どの段階に、どのような内容を？」ということが問われることになる。それぞれの目標は密接に結びついていることから切り離して内容

を考えると無理が生じかねないが、整理する意味で内容を目標との関係で図式化してみた（(2)「性の指導目標と内容の関係」）。ここでは単に小学部、中学部という分け方にしないで小学部低学年・中学年と小学部高学年・中学部という分けかたをした。それは、「人生の第二の誕生」ともいえる思春期が小学部高学年から中学部の段階にあたるからである。高等部の段階になると青年期にさしかかることからここでも一線を画することとした。この小学部低学年・中学年→小学部高学年・中学部→高等部という分け方は子どもの体や心の成長・発達の間からみた分け方ということになる。ただ、子どもの体や心の成長・発達には個人差があるので常にこのことは考慮に入れておくことが必要である。

図の中に書きいれてある内容は、それぞれの段階にどうしてもおさえないものであり、これらの内容を障害という実態もふまえて具体的に示したものが「(3) 指導内容」である。この指導内容は、これまでに本校でおこなってきた性の指導を主軸としながら、さらに新しい内容もとりにいれ整理をおこなったものであるが、「性の指導目標と内容の関係」の図もふくめてあくまでも試案の段階のものであり、今後さらに検討を必要とするものである。

## (2) 性の指導目標と内容の関係



### (3) 指導内容

#### 〔小学部低学年・中学年〕

題 材	指 導 内 容
わたしの誕生日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おとうさん、おかあさんから生まれた自分</li> <li>○誕生日の自覚</li> <li>○育ってきていること</li> <li>○友だちの誕生日</li> </ul>
おうちのひと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親、きょうだい</li> <li>○赤ちゃんの時があったこと</li> <li>○家庭の中の自分</li> <li>○知らない人についていけない</li> </ul>
たいせつなからだ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○からだの清潔                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗顔、手洗い、歯磨き、入浴</li> <li>・洗髪</li> <li>・下着のとりかえ</li> <li>・性器の清潔</li> </ul> </li> <li>○からだの病気                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・痛みと訴え</li> </ul> </li> </ul>
じょうずなおしごとうんち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トイレの使い方</li> <li>○排泄の仕方</li> <li>○排泄後の清潔、身だしなみ</li> </ul>
みんななかよし	<ul style="list-style-type: none"> <li>○してはいけないこと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・わがまま</li> <li>・いじわる、仲間はずれ</li> <li>・よわいものいじめ</li> </ul> </li> </ul>

#### 〔小学部高学年・中学部〕

題 材	指 導 内 容
ぼくの・わたしの家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の生いたち</li> <li>○家族の愛情</li> <li>○家族の中でのかけがえのない自分</li> </ul>
おへそのひみつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○胎内での赤ちゃん</li> <li>○赤ちゃんの誕生</li> <li>○母親とのきずな</li> </ul>
男の子・女の子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男子と女子のからだのちがい</li> <li>○男女のちがいと相互理解</li> <li>○男女仲よく</li> </ul>
動物のオスとメス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動物はオスとメスがある</li> <li>○人間と動物</li> <li>○オスとメスによって子孫がつけられる</li> </ul>
わたしのからだ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体の部分の正しい名前（性器も）</li> <li>○体と病気</li> <li>○病気の予防</li> </ul>
大きくなるからだ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○からだの変化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二性徴</li> <li>・初潮、精通</li> </ul> </li> <li>○大人に近づくからだ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・からだの個人差</li> <li>・マナーやエチケットをまもる</li> <li>・月経の手当</li> </ul> </li> </ul>
テレビとわたしたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○番組の選択</li> <li>○まねてはいけないこと</li> </ul>

#### 〔高等部〕

題 材	指 導 内 容
わたしの生いたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生まれてから現在までのこと</li> <li>○生命の大切さ</li> <li>○愛情の尊さ</li> <li>○自分を大切にするとともに他人も</li> </ul>
赤ちゃんの育ち方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な人の赤ちゃん</li> <li>○受精から出産まで</li> <li>○出産後の育ち方</li> </ul>
男女交際	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相互理解と協力</li> <li>○相手の尊重</li> <li>○友情と恋愛</li> <li>○交際の時のエチケット、マナー</li> <li>○おしゃれ</li> </ul>
これからのわたしたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚する自由のない自由</li> <li>○結婚の社会的責任</li> <li>○結婚による生活の変化</li> <li>○生きがい</li> </ul>
からだのつくりとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○からだの一部としての性器</li> <li>○生殖器のしくみ</li> <li>○性器の保護と清潔</li> </ul>
生命の誕生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受胎のしくみ</li> <li>○性交、避妊※</li> <li>○エイズ</li> </ul>
生活のマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>○性衝動と性の被害加害</li> <li>○不用意な言動</li> </ul>

※性交、避妊については必要に応じ個別的な対応も考えられる

(安 田 茂 章)

## 4 おわりに

グループでの5年間の活動を思いおこし、改めて実感されること4点について述べまとめたい。

(1) 毎年研究協議会を持ち参加者と意見交換をしてわかったことの一つは、学校あるいは部としての組織的な取り組みが仲々容易でないという実態であった。性教育の大切さ、必要性は認めながらも、まわりの大人の態度、受けとめ方考え方に違いがあり さらに教師自身にもとまどいがあるとかく敬遠されがちとなる。結局、意欲と関心のある個人的な働きかけにとどまって、組織的な対応とならない所が多いようであった。その意味で、今日の性教育推進の風潮に先がけて、このグループができた事そして継続的な活動が行えたことは改めてその意義の大きいことを実感する。しかも、子ども達に緊急な課題、問題があって対処しようとして生まれたことでなく、落ち着いて受けとめて出発できた事もよかったように思う。

(2) グループでの会を重ねた討議、語りあいあるいはビデオを見ての話し合いは、この指導の持つ何か知りごみしたくなる面や気恥ずかしさを払しょくさせる力を与え、子どもや授業に対して何か自信らしきものをもたらしところがあったといえる。たとえば「ちんちん」といっていたものが、ごくあたり前に「ペニス」といえるようになったことなどは以前とは違うといえる。そして教師の真剣な姿勢というものは、子ども達にも十分通じるものであり、指導にあたっての心配等を杞憂に終わらすものであるということもいえる。

(3) 性指導を幅広く受けとめ、生き方の問題として見ていくことは学級指導や各教科などあらゆる活動のなかで、ちょっと性を意識すること、性の視点で見てみることで気楽に取り組めることを感じた。要は教師の意識の中にそうしたものが備わるかどうかである。そして授業というかたちでなされる指導はその一面であって、時、場所を問わず、個に応じてなされる日常生活指導もおろそかにしてはいけない。

(4) 昨年来—子どもの気づきを大切に—というサブテーマを設けて研究してきた。このグループも学習の中で、あるいは日常生活の中で子どもの気づきに注意してきたが、「気づき」ということばを「おもい」ということばでうけとめることが多かった。目の前にいる子ども達が、今何を考え、どうおもっているのかその性感情を知ろう、わかろうという姿勢できた。性感情や行動が見える子はいいが、そうでない子の方が多いといえる。我々が困ったり悩んだりしたと同様に、子ども達にもきっと何かあるはずだ、わかってやりたいという気持ちで見てきた。そうした姿勢を指導の出発として大切にしていきたいものである。

(浦田 東 作)